

5 令和4年度 学校評価

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月28日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒が課題を発見し、探究して課題を解決する力を養えるような教育課程を編成する。</p> <p>②学ぶ意欲や探究心を高めるための授業改善に取り組む。</p>	<p>①基礎学力の定着に主眼を置き、社会で生き抜くための人間力を高める。令和4年度入学生用の新しい教育課程の運用・改訂を考える。</p> <p>②生徒の多様なニーズに合致した、実践力を高めることのできるような授業の実現、および、学習の質の向上や個別最適化を目指し、外部資源やICT等の利活用に積極的に取り組む。</p>	<p>①学校内の意見を整理し、学校外からも情報収集することにより、様々なニーズに対応し、学校目標にも合致した適切な教育課程の運用方法・改訂策を提案する。</p> <p>②生徒による授業評価のコメントをヒントに、検討会等を実施することで、生徒同士がお互いを支え合う授業作りへの工夫や、学習内容の定着率を高めるための工夫を共有し、生徒が自発的に学習に取り組む授業の実現を目指す。また、学校内部での取組みだけでなく、外部との連携を積極的に行うことにより教員一人ひとりの授業力向上を目指す。</p>	<p>①積極的に情報収集を行い、様々なニーズや学校目標に適切に対応した教育課程改善案を提示し、軌道修正をすることができたか。</p> <p>②生徒による授業評価の8項目の質問に対する回答が、前年度の平均値である3.1を超えることができたか。生徒たちから寄せられる自由記述欄のコメントを参考にして、自らの授業を振り返り改善につなげることができたか。また、外部との連携により得られた知識・情報等を通じて、授業力を向上させることができたか。</p>	<p>①新しい教育課程に対する意見交換や情報収集を重ねた結果、現段階では修正をする必要はないと判断したが、2・3年の選択科目の充実については引き続き検討することとなった。</p> <p>②生徒による授業評価の8項目の質問のうち5項目については0.1ポイント以上引き上げることができた。自由記述を丁寧に取り扱い、組織的に真摯に対応することで授業の改善につなげることができた。ICT機器の活用を中心とした授業改善に取り組み、教職員のICT機器活用への意識を高めることができた。</p>	<p>①新しい教育課程に対応した個別最適な授業の実践について、また、指導と評価の一体化について各教科・科目内でより一層の研究が必要である。</p> <p>②一人一台端末の導入により、これまで以上にICT機器の活用に対する教職員の意識の向上が求められているなか、校内研修の充実などその利活用に関して学校として組織的に推進する必要がある。教科横断的な視点で組織的に授業改善に取り組み、カリキュラムマネジメントを充実させることにより、生徒の学習改善につなげる必要がある。</p>	<p>① 生徒の授業評価の5項目を引き上げられたことは評価できる。記述事項にも着目して授業改善に生かしてほしい。</p> <p>② 二宮町の小、中学校と連携して、二宮高校の生徒が勉強を教える取組(寺子屋)を進め、主体的で深い学びにつなげ、さらに小、中学生の模範となる取組を進めてほしい。</p>	<p>① 新学習指導要領に対応した教育課程は順調に進行している。個別最適な授業や指導と評価の一体化の研究が必要である。</p> <p>② 一人一台端末の導入にとともに、教員にICT機器活用の意識を高めた。さらに、ICTの利活用を進め、授業改善につなげる必要がある。</p>	<p>① 指導と評価の一体化にむけた研究をすすめるとともに、個別最適な授業や協働による授業の展開を促進する。</p> <p>② ICTを活用した効果的な授業の展開を普及させるために、一人一台端末の活用に向けて環境の整備を行う。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①基本的な生活習慣の確立と支援教育体制の充実を図る。</p> <p>②生徒の主体的な活動を支援し、豊かな人間性やコミュニケーション能力を育成する。</p>	<p>①頭髪・服装指導を徹底し、落ち着いた学校生活を確立する。</p> <p>②行事や部活動を高校生活の柱の一つと捉え、主体的・意欲的な参加を促す。</p>	<p>①生活指導グループによる登校指導や全職員によるチェック体制を再整備する。</p> <p>②新入生歓迎会や部活動登録期間を通じて積極的に部活動勧誘を行う。また、生徒自ら感染症対策を意識して学校行事を企画・立案、実施する。</p>	<p>①頭髪・服装の乱れが減少し、指導対象生徒の人数が減少したか。</p> <p>②新しい生活様式を踏まえた行事の企画・立案、実施できたか、また部活動加入率が向上したか。行事ごとのアンケートで良かったと回答した生徒が7割を超えたか。</p>	<p>①2学期以降、再登校指導も含めた複数回の登校指導を実施した。登校指導時には指導対象生徒は減少した。</p> <p>②新入生歓迎会による部活動紹介や部活動登録期間の見学などを通じて各部・同好会による勧誘を行うことができた。また、感染症対策を講じて、体育祭や文化祭などの学校行事を実施した。文化祭については、保護者のみの限定公開として3年ぶりに対面開催を実施した。</p>	<p>①日頃の指導が徹底されず服装の乱れが目立っている現状である。特に女子生徒の冬季のジャージ着用の改善が課題である。</p> <p>②新しい生活様式を踏まえた行事の企画・立案により実施し、アンケートの結果、全体の回答は「体育祭」が「良かった」95.4%、「文化祭」は「楽しかった」が89.7%を占めた。ただし、現状の自主規制による制限の見直しを迫られる内容も散見され、次年度以降に改善を要する。</p>	<p>① 生徒が主体的に校則を考えることにより、生徒が主体的に校則を守る取組をして欲しい。また、生徒が時代に合わなくなった校則の見直しの検討をすることにより、生徒と学校の双方が納得できる指導をして欲しい。</p> <p>② 多くの生徒が学校行事を肯定的に感じていることは評価できる。これからも、生徒を主役にした、生徒自らが企画・運営する学校行事であることを期待している。</p>	<p>① 少しずつではあるが、服装指導を全職員で行う体制は整備されてきた。服装指導等の目的を明確にし、生徒・保護者の理解を得ながら行うことが必要である。</p> <p>② コロナ禍における学校行事のあり方を、生徒が主体的に検討し、新たな形での学校行事を実施できた。</p>	<p>① 生徒・保護者の理解を得ながら、校則や規律を遵守させる指導を行う。</p> <p>② コロナの影響が緩和される中で、今後の学校行事のあり方を検討し、新たな時代の学校行事を構築する。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月28日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<p>①生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、多様な進路希望の実現を支援する。</p> <p>②キャリア教育を充実させ、より良く生きる能力を育成する。</p>	<p>①進路希望実現に向け、面接指導など個々に対する指導を充実させるとともに、社会情勢に対応したシチズンシップ教育を実施する。</p> <p>②インクルーシブ教育推進校として幅広い実習先や体験先の開拓を行い、活動の充実を図る。キャリア科目において、生徒の自己理解と進路に対する前向きな姿勢を育成する。</p>	<p>①外部講師を招聘して進路講演会や政治・司法参加教育を行う。生徒に対する個別指導の機会を増やす。</p> <p>②インターンシップを推進するとともに、受入先の事業所を開拓する。体験的で対話的な授業を通し、生徒の自己理解と進路に対する前向きな姿勢の育成を図る。また、その取組みの過程や成果を保護者へ情報提供する。</p>	<p>①事後アンケートでの前向きな感想が80%以上、個別指導を受けた生徒が80%以上あったか。</p> <p>②インターンシップへの参加率がコロナ以前の令和元年度に比して10%増であったか。また幅広い事業所の開拓ができたか。授業を通し、生徒の自己理解と進路に対する前向きな姿勢が身に付いたか。また、面談や進路説明会等を通して保護者へ情報提供することができたか。</p>	<p>①可能な範囲で効果的な進路指導が実施できた。事後アンケートでの好意的な回答は75%であった。個別指導の機会増加は学年ごとで工夫し計画できた。3年生は90%以上の生徒が指導を受けた。</p> <p>②各学年に応じた様々な進路活動を推進することができた。3年生は高校生活で深めた自己理解をもとに自身に適した進路先を自ら選び、意欲的に活動することができた。キャリア科目では、担当する教員を増やし様々な視点から生徒の実態に応じた授業を展開することができた。</p>	<p>①オンライン等の指導が充実する環境の整備や、情報機器の活用を工夫し、生徒の関心を高める。</p> <p>②卒業後すぐの就職希望者については、就労準備性の育成という観点において課題が残った。また、卒業後のフォローアップについて、ある程度の方向性を定める必要がある。進路業務やキャリア科目について、学校全体の取組としてどのように浸透・定着させていくかを示す必要がある。</p>	<p>①卒業後の進路決定にかかる進路指導のみならず、本来のキャリア教育を基盤とした進路指導も充実してほしい。</p> <p>〈魅力・特色アンケート(3学年生徒)〉キャリア教育の効果:肯定的回答 84.7%(昨年度 80.0%)</p>	<p>①校内外での進路決定を啓発する学校行事を再開することができた。</p> <p>②インクルーシブ教育実践推進校の特別募集の初めての卒業生を出すにあたり、多くの卒業生の進路を決定することができたが、進路未定の者もあった。</p>	<p>①外部講師を招いた進路行事等はオンラインの活用なども視野に入れて方法を検討し実施する。また、個別指導についても、さらに充実させ多くの生徒が受けられるように指導する。</p> <p>②インクルーシブ教育の推進の視点で、インターンシップ等の受け入れ事業所の開拓を引き続き行う。また、就労準備性の育成を視野に入れたキャリア教育を展開する。卒業生後のフォローアップをすすめる。</p>
4	地域等との協働	<p>○地域との連携・協働の充実を図り、信頼される学校づくりを推進する。</p>	<p>○感染症対策を講じながら、可能なイベントに生徒の参加を促す。</p>	<p>○感染症対策を講じるとともに、参加者の安全に留意したイベントについて、部活動や同好会、委員会に案内し、参加を促す。</p>	<p>○イベント等に参加した生徒に対するアンケートを行い、肯定的な回答が7割を超えたか。</p>	<p>○感染症対策を講じながら、第31回ガラスのうさぎ像～平和と友情のつどい～に家庭科部、生徒会本部役員が参加し、二宮町立小中学校との千羽鶴制作、碑文の英訳朗読を行った。また地域からの要請により、「海岸清掃」や「赤い羽根募金」への取組み、「このみや男女共同参画フォーラム」への協力、参加を行った。</p>	<p>○年間を通じて、依然としてイベントの自粛などの影響があり、3年前の実施状況には及ばないが、徐々に要請数が増え、参加する生徒の人数も増えてつある。本校「ボランティア同好会」では、経年で参加しているイベントもあるため、要請に応える状況が整って対応することができれば地域との連携が、一層望める。</p>	<p>①コロナ禍で行動が制限される中においても、二宮町と協働事業を実施できたことは評価できる。今後はさらに発展させるために、早めの協議が必要である。</p>	<p>①感染対策の緩和等により、地域の行事等に参加できるようになってきた。感染対策を講じるなどの安全・安心な参加のあり方について、検討する必要がある。</p> <p>②地域連携による防災訓練を検討する。特に大規模地震や大型台風の接近などについては、喫緊の課題として二宮町との連携を模索する。</p>	
5	学校管理 学校運営	<p>①事故不祥事防止を徹底するとともに、教職員の実践的指導力を一層向上させる。</p> <p>②防災教育と安全安心な学校づくりを推進する。</p>	<p>①成績処理支援システムの仕様変更も含め、成績処理に関する処理体制・点検体制等の再構築を行う。各会計の適正な執行や管理に努める。</p> <p>②防災教育と環境美化の推進に取り組む。</p>	<p>①成績の入力から点検までの業務を整理し、全職員で正確な成績処理を行う体制を整える。私費会計基準に則った会計・管理を行う。</p> <p>②防災避難訓練やDIGを行ない、防災意識を高める。また防災教育に被災者の体験記録等を取り入れる。美化委員会を中心にゴミ回収の際に分別回収を徹底する。</p>	<p>①適切な出欠管理により、修正件数が前年度に比べ50%以上減少したか。会計事故なく執行・管理ができたか。</p> <p>②アンケート等をおして振り返りを行い、防災意識の高まりについて肯定的な回答が7割を超えたか。ゴミの分別回収・減量に取り組めたか。</p>	<p>①今年度は単位制用成績処理支援システムを4月より導入し、成績処理に関して大幅な改善を行ったため、通知表の差し替え件数は前年度に比べ半数以下に減少し、事故の未然防止につながることができた。</p> <p>②10月に防災避難訓練を実施し、終了後各クラスで生徒全員がDIGを行なった。今回、映像により被災者の体験記録を取り入れたこともあり、事後のアンケートでは89%の生徒が防災意識の向上に役立ったと回答した。ゴミの分別回収については今年度も徹底することができた。</p>	<p>①結果を出すことには成功したが、依然として目立つ欠課時数の誤り等を減らすために、クラスの出席簿や教務手帳等に関して中間点検を実施するなど管理方法の見直しを行う必要がある。</p> <p>②今後も継続的に防災意識および環境美化意識の向上に努める。また避難訓練やDIGに工夫を加えより効果的なものとする。分別回収のみならずゴミ自体の削減にも努力し、SDGsの観点を取り入る。</p>	<p>①防災訓練においてDIGを行い、防災意識を高めたことは評価できる。さらに、イベントを復活し、地域防災を活性化させて欲しい。</p> <p>〈魅力・特色アンケート(3学年)〉学校への満足度肯定的回答 生徒83.6%(昨年度 75.8%)、保護者 92.3%(昨年度 82.2%)</p>	<p>①単位制成績処理支援システムを導入することにより、成績誤りを内部処理の段階で減らすことができた。</p> <p>②避難訓練、DIG、映像による学習を組み合わせた防災訓練を実施したことにより生徒の防災意識を高めることができた。</p>	<p>①成績処理や会計処理について、常に事故防止を念頭に置き、点検・管理を徹底する。</p> <p>②効果的な防災訓練や研修を行い、生徒・教職員の防災意識を高める。</p>